
■英国のことあれこれ (4)

二つのパブ

中央大学教授 Ichikawa Yasuo
市川 泰男



今年も3週間ほどイギリスに滞在する機会が持てた。ロンドンに着くとすぐにパブへという人もいるらしいが、私はテレビを見て頭を英語漬けにすることにしている。でも、すぐうとうとしてしまう。ふと画面を見ると、In the 1960s Twiggy was a famous what? (a) model (b) cook (c) gardener と出ていたので思わずにんまりとした。UNICORNで勉強したお陰で解ける問題が英国のテレビ番組に出ることもあるのだ。

18年前の滞英中に楽しんだEastEndersとかCoronation Streetという番組が依然続いているので何となくほっとする。前者は後者(1960年放映開始)に対して1985年に始まったドラマであり、出だしの音楽と蛇行するテムズ川の映像が印象的だ。「継続は力なり」と言うが、継続は安心感を与えてくれもする。

しかし、たまに意外なことに接するのも実に楽しい。ニュースを見ていたら、Trafalgar広場のNational Galleryから見て右手前の台座の上に男性が素っ裸で立っている光景が映し出された。もちろん、ほかしが入っていたが、^{あぜん} 啞然としている人、^{こうしゅう} 哄笑している人、眉をひそめている人、写真を撮っている人など多くの見物人が映し出された。10月14日までの100日間、一人一時間で2,400人が台座に立つのだそうだ。奇抜なことをするものだと驚いたり、面白い試みだと感心したりした。これぞ芸術を尊びユーモアを愛する国民の為せる業なのだろう。翌日見に行ってみると、見物人にビニール袋に入った本を投げながら、読み終えた本に世界を旅させようというBookCrossing運動を訴える男性が立っていた。

これもつい先日のこと、同僚とスコットランドを少し見て回り、有名なStirling Castleを訪れたところ、スコットランド王室ゆかりの城のためか、敷地内にUNICORN CAFÉというカフェがあったのでお茶を飲んだ。近くに、Around Stirling Castle you will see several unicorns. See how many you can find. Be prepared for a few surprises. という掲示もあった。再び訪れる機会があったらぜひ探してみたいものだ。

Unicorn と言えば、昨年のこと、旅先でB&Bにでも泊まろうと考えていた日の夕方、雨も降っているのでそろそろ宿を探さなければと思った矢先に、赤信号

で車を止めたら目の前にTHE UNICORN HOTELという宿があったのだ。あのときの偶然が生んだ奇跡の輝きは忘れられない。このホテルはコッツウォルズ地方のStow on the Woldという村にある17世紀の建物で、地元ではおいしい食事を出すことで有名だった。

ロンドンでの滞在先でもこんなことがあった。近くにClissold Parkという広々とした公園がある。この公園の脇にRobinson Crusoeというパブがあることは前から知っていたが、散歩を兼ねて昼食に出かけ、Stoke Newington Church St.を公園沿いにしばらく歩いて行ったところ、今度はThe Daniel Defoeというパブを見つけたのだ。インターネットでこのパブを検索したら、ある程度の情報はあったが、あのデフォーとの関連は何も述べられていなかった。

今度はデフォーその人の生い立ちなどを知るべく検索したら、St. Giles Cripplegate, Londonの教区に生まれたとの記述があった。これだけではStoke Newingtonとの関連は分からない。そこで、ヒントを求めてSt. Giles Church (写真)へ行ってみることにした。教会の中のパンフレットなどが置いてある棚に*The Ward of Cripplegate in the City of London*という本があった。5ポンドだったので早速買って立ち読みしたら、デフォーはフォーという名の肉屋の倅で、Fore Streetに生まれStoke NewingtonのDissenting Establishment(非国教徒向けの教育施設)で教育を受けたとの説明があった。私のちょっとした探求はここで止まったが、Stoke Newingtonに上記二つのパブがある理由に納得でき、満足した一日だった。

後日の再検索で、パブDaniel Defoeの前のChurch St.に行き当たる通りはDefoe Roadという名称であることが分かった。パブから見て左側の最初の建物上部にBlue Plaqueがあり、DANIEL DEFOE(1661-1731) Lived in a house on this site. と記されていた。

*公園沿いのChurch St.の両側に教会があり、写真を撮っていたら、この教会のVicarだと言う人に会った。その司祭によると、Dissenter(非国教徒)はWestminsterから5マイル以内には住めなくなり、彼らの多くがStoke Newington近辺に移り住んだとのことだった。